

## ■9月14日

## ICAO、カナダ総会、台湾に招待状

国連専門機関である国際民間航空機関(ICAO)は、24日にカナダで開催する総会へ台湾の交通部(交通省)に招待状を送ったことが、13日分かった。台湾の交通部が発表した。これで、オブザーバーとしての初の参加が実現し、台湾が国際的な航空情報にアクセスできるようになる。

台湾は国連に加盟しておらず、関連機関への参加も「一つの中国」原則を掲げる中国の反対で実現していない。ただ中台関係の融和を受けて2009年には世界保健機関(WHO)のオブザーバー参加が実現。ICAOについても、昨年のアジア太平洋経済協力会議(APEC)で中国が台湾の参加容認の姿勢を示していた。

(日経)9/13

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1301V\\_T10C13A9EB1000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1301V_T10C13A9EB1000/) (->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1301V\\_T10C13A9EB1000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1301V_T10C13A9EB1000/))

## スターフライヤー、北九州—務安へのチャーター便、正式発表

スターフライヤーは、当社初の就航先となる北九州から韓国の務安へ向けたチャーターフライトの実施を正式に発表した。日程は、9月21日と23日にこのチャーター便を使った旅行商品をHISが造成、販売する。また、現地・務安からの北九州向けのツアーを販売するという。

同社は8月1日から26日までの間に13往復26便の北九州～グアム線チャーター便を運航。旅行代理店6社がツアーを販売した。全運航便の平均搭乗率は7割程度で、好調に推移したという。

(スターフライヤー プレスリリース)9/13

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130913023545.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130913023545.pdf>)

(日刊航空)9/10

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

## PEACH(LCC)、関空—釜山線就航、国際線4路線目

ピーチ・アビエーションは13日、関空—釜山線を1日1便(週7便)で就航を開始した。片道運賃は関西—釜山線が4780円から2万1580円

同社にとって海外路線はソウル(仁川)、香港、台北(桃園)に次ぎ4路線目となる。使用機材はエアバスA320、座席数180席。

同路線には大韓航空、エアプサン、アジアナ航空が週に計42往復運航しており、ピーチの就航により金海空港で最も便数が多く競争の激しい路線となった

さらに9月20日より沖縄からピーチ初の国際線、沖縄(那覇)—台北(桃園)が運航を開始する。

(yonhapnews)9/13

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/09/13/0200000000AJP20130913001700882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/09/13/0200000000AJP20130913001700882.HTML>)

(PEACH HP)

<http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/route/routemap.aspx> (-> <http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/route/routemap.aspx>)

## PEACH(LCC)CEO、那覇—石垣線、増便の意向

ピーチ・アビエーションの井上慎一・最高経営責任者(CEO)は13日、この日に就航した那覇空港と新石垣空港を結ぶ路線(国内線では8路線目)の増便を検討する意向を示した。

日経によると、井上CEOは那覇空港での就航記念式典で「新路線開設で県外観光客は沖縄本島と(石垣島などの)八重山地域を周遊して楽しむことができる」とあいさつ。「準備ができ次第、増便を検討したい」と話し、運航態勢やスケジュールなどを早急に詰める考えを示した。

(->) 同社は国内のLCCでは初めての那覇発着国際路線として、20日に那覇—台北線を開設する予定。他のアジア主要都市への就航も視野に入れており、那覇空港を閑空に次ぐ拠点空港に育てる方針だ。

なお、13日に就航した那覇—新石垣線は1日1往復で、初日は新石垣からの便に108人、那覇からの便に147人が搭乗した。国内線

(日経)9/14

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59696750T10C13A9LX0000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59696750T10C13A9LX0000/>)

国交省、フィリピンとオープンスカイ、羽田昼間時間帯合意は9か国目

国交省は9月13日、日本とフィリピンとの航空当局間協議で、首都圏空港を含むオープンスカイで合意したと発表した。成田空港や首都圏以外の空港で即日実施。首都圏以外の空港では第3国地点への輸送も合意、コードシェアの枠組みも自由とした。首都圏空港を含むオープンスカイに合意した国・地域はフィリピンが25ヶ国目。

また、羽田空港の昼間時間帯(6時～23時)にインドネシアの都市を結ぶ路線を設定できるようにすることで合意した。羽田空港で2014年3月末から国際線発着枠が年間3万回から6万回に増加する段階で、双方がそれぞれ羽田空港昼間時間帯の発着枠を1日2スロットずつ、深夜時間帯においても1日2スロット獲得できる枠組みを設定した。

今回のフィリピンとの合意により、来年春からの羽田昼間時間帯の国際線3万回増枠に関する合意国は英国、フランス、中国、シンガポール、タイ、ドイツ、ベトナム、インドネシア、フィリピン(9か国目)の9カ国となった。

(国交省プレスリリース)9/13

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03\\_hh\\_000215.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000215.html) (->

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03\\_hh\\_000215.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000215.html))

インディゴ(LCC)、運賃を最大25%値上げ、ルピー価格低下、燃料高騰を受け

(レスポンスによると)

インドの格安航空インディゴは他の航空会社に倣いフライト運賃を最大25%値上げする事を発表した。タイムス・オブ・インディアが報じている。

大きな原因は、最近のルピー価格低下。また9月から施行された燃料価格の値上がりも要因となった。

同様にスパイスジェットやジェットエアウェイズも運賃を値上げしている。

(レスポンス)9/13

<http://response.jp/article/2013/09/13/206304.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/13/206304.html>)

エアアジア、バンコク—昆明線新規就航、1日1便

(newsclip.be!によると)

マレーシアの格安航空大手エアアジアはバンコク(ドンムアン空港)と中国四川省昆明を結ぶ直行便を11月15日から運航する。毎日1往復で、使用機材はエアバスA320型機(180席)、飛行時間は約2時間半。

エアアジアのタイ・中国路線は現在10路線で、週119便を運航。平均搭乗率は85%に上る。

(newscli.be)9/14

<http://www.newsclip.be/article/2013/09/13/19018.html> (-> <http://www.newsclip.be/article/2013/09/13/19018.html>)

香港エクスプレス航空(LCC)、羽田・関空線就航、週7便、11月から

香港国際空港をベースとする唯一のLCCである香港エクスプレス航空は9月12日、香港・上環で行われた記者会見で、10月から新たに7路線に就航することを発表した。

同社は、これまで沖縄やバリなどのリゾート路線を除いて、主に中国のビジネス路線を確保してきたが、今回は香港人に人気のある都市を中心に東京(羽田)、大阪(関空)、プーケット、チェンマイ、台中、コタキナバル、昆明に就航する。就航予定日は、東京(羽田)は11月7日、大阪が11月21日、そのほかは10月27日。香港経済新聞が報じた。

LCCは高い搭乗率の維持が鍵であり、今後近距離・中距離路線を中心に他のアジア地域に路線を広げる計画。他のバジェットエアとは違い、航空券の販売もウェブサイトのみではなく、旅行代理店でも取り扱いがある格安航空会社であることを強調した。

フライトスケジュールは、深夜・早朝の離発着が可能な香港国際空港の利点を生かしており、香港-羽田路線は香港を19時05分に出発し、翌1時30分に到着。羽田を深夜1時30分に出発し、明け方5時45分に香港に到着する。大阪は香港を9時30分に出発し、13時55分に到着。戻りは関西国際空港を14時50分に出発し、18時15分に香港に到着する。

(香港経済新聞)9/13

<http://hongkong.keizai.biz/headline/133/> (-> <http://hongkong.keizai.biz/headline/133/>)



バニラ・エア(LCC)、ホームページを開設、11月1日に社名変更

エアアジア・ジャパンは、11月1日付けで社名変更する「バニラ・エア」のホームページを開設した。

ホームページURL: <http://www.vanilla-air.com/#> (-> <http://www.vanilla-air.com/>)

エアアジアブランドでの運航は10月26日までで、その後はバニラ・エアのブランドで運航する。バニラ・エアの路線と商品概要は9月下旬に発表する予定。航空券の販売開始は11月上旬、運航開始が12月下旬の予定。

(レスポンス)9/14

<http://response.jp/article/2013/09/13/206389.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/13/206389.html>)

中華航空、孫洪祥会長、花巻空港へのチャーター便、冬に増便の意向

中華航空の孫洪祥会長が13日、自社のチャーター便で花巻空港に来日し、花巻空港へのチャーター便を増やす意向を明らかにした。

河北新報によると、孫会長は花巻空港で、「台湾の客が岩手でスキーを楽しめるようにしたい」と強調。これまで春、秋が主力だったチャーター便を冬に重点を置いて増やす考えを示した。

孫会長は16日まで滞在し、八幡平市、平泉町などを訪問するほか、達増拓也知事と懇談する。

台湾からのチャーター便は2009年度に57便だったが、東日本大震災後の11年度は8便に減った。13年度は既に21便が運航しており、回復傾向にある。

達増知事はことし4月に台湾を訪れ、中華航空に花巻空港との国際定期便就航を要請していた。

(河北新報)9/14

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/09/20130914t32008.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/09/20130914t32008.htm>)